

支援機器相談シート

相談日 令和4年 10月 28日
担任名 伊藤 佐知子

高等部 1年

- ① スイッチを使用することによる疲労を軽減する方法はないか。
- ② 足以外でスイッチを使えそうな部分を育てたい。どのような種類のスイッチがあるか、本人にマッチングするものはあるか等を知りたい。

【本人の状況】

相談内容 授業でスイッチを使用する機会が増えて、本人の疲労感も増している。疲労のため、時間経過とともにスイッチを押す力も弱くなり、スイッチが反応しないことが多々ある。本人は左足でのスイッチ操作は苦手な様子で、当初使っていた風船型のスイッチは反応しないことが多かったため、クッション型のスイッチも使うようにし、左右の足を授業ごとに交互に使うようにしている。足指以外で自力で動かせる場所は少なく、現時点では眉間や口角、わずかに指先が動く程度である。

また、本人が自分の思いを自発的に発信できるような方法はないか知りたい。

○車椅子について

今後、車椅子を新しくする。少しずつ体を起こせるようにする予定。

体を起こすことで、視野が横だったものを正面にして、視野を広げていきたい。

家庭でのリハビリでは、座る練習を行っている。足を降ろしたり、あぐら座位をしたりするとよいといわれている。

フラットも、起こすこともできるようにする。フラットのとくと座位のときのちょうどよい高さが異なるのでどうすべきか。

タブレットを取り付けられるようにし、左右の位置や向きを変えられるようにする。

上半身を起こすと体重がかかる部分が変わるため、床ずれの可能性が出てくる。体重をうまく分散できるようにし、圧力分散させる。

相談結果 電動ベッドなどで体が動き、皮膚がズレることで、肌に負担がかかる。腕を上げて置き直したり、肩を動かしたりするなど、一度浮かせて整えることで解消できる。

電動ベッドを上げると、体は30度の角度くらいからズレはじめる。本人の目標は45度なので、ずれに注意する。

姿勢変換をする余裕のある車椅子を作るとよい。

○スイッチについて

スイッチで意思を発することはできるが、周りの人に自分から思いを発信できるとよい。

視線入力は模索したが、本人との距離感などからなかなか難しくあきらめた。

現在は、足のスイッチを毎日使用している。

長時間使っていると疲れてくる部分もあるが、最近は両足を交互に使うこともできるようになってきている。

足の指だけではなく、眉間の動きなども使えるとよいと保護者は思っている。

授業で使うスイッチと意思発信（ブザーが鳴る、光る、など）のスイッチ2つを分けていけるとよい。

両足で2つのスイッチを使いたい。左右で動きの差はあるが、使い分けしていけるとよい。

左右のスイッチで音が違うと、本人もどちらを動かして反応しているかを認識しやすい。

足裏が上を向いている方の足の下に空気を入れたスイッチを置いても、指が上に動くのでなかなか難しい。

足指を反らすことができないので、足裏が上を向いた方の足にどのようなスイッチを使うとよいか。

右足はよく動き、左足は徐々に動きがよくなってきている段階。

スイッチを押そうとするときに、片方を動かすつもりでも両足が動いてしまいやすい。

今後の課題として、片足ずつ動かしていけるとよい。

吸引等でスイッチがずれてしまうため、大きいスイッチの方に呼び出しブザーを付けるとよい。今は風船を使っているが、劣化しないものに替えられるとよい。空気が漏れたり入れ直したり、手間がかかる。スポイトの先を使う場合もあるが、本人が使うには硬いため、やはり風船が一番よい。

スイッチの感度が高く、誤反応を起こしやすいので、「2回力を入れるとブザーが鳴る」などの設定もできる。

最初は、本人と呼んだかどうかを確認しながら進めるとよい。

ブザーは、授業で他の生徒が気になってしまうため、光のものもあるとよい。光の方がよいときと音のほうが良いときと、環境に合わせて使い分ける。無線を使ってバイブレーションで伝えることもできる。

家庭でも、無線で呼べるとありがたい。今は、自分で脈を上げてアラームを鳴らし、家族を呼んでいる。

人を呼ぶために脈を上げるのが日常だが、これを続けるのは健康上どうなのか心配。

それに代わる無線が欲しい。無線のワイヤレスコードを使うときは、つなぎ部分を改造するだけで使えるようになる。

機種選定と改造について、なごや福祉用具プラザ リハビリテーション工学技師 長東昌夫先生が相談に乗っていただける。

無線のワイヤレスコード

住宅・生活環境によっても違うので、それを見て考えていく。

車でも、揺れなどがあってアラームが鳴ることがある。大丈夫なのかどうかを確認するため、毎度車を止めている。揺れに強いスイッチがあるとよい。

